



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

93.10.25 No. 3880

## 運転関係

■一六仕業のあけの場面で中野折返しがあるが、この時間帯は乗客も多く客扱いで遅れることもあり、すべの折り返しでは時間が遅れるようになってしまふ。段下げにしたほうは時間がなく入換え作業が入っていることから、西船橋での線見を終えた年配の運転士が担当することから、入換えの多いこともあり段下げの方が良い。

■三仕業、四仕業の出動時間が同一時間(六時八分)で、点呼の時にはあけの運転士もい改でも同じことがあつたのに改善されないのは会社の怠慢だ。また、四仕業では、五時三十分出動で、中二〇分の時間があるが、とても食事ができず、結局十一時まで食事をとることができない。もっと早い時間に食事時間を入れるべきだ。

### 12.1ダイヤ改 阻止へ向け

■十三仕業での夕食時間帯が十六時台になつて行い、入区後に食事時間を取ったほうが、夜になってから空腹になることもないのでベスト

■三仕業の西船橋掘付けの電車、掘付け時に下り方に五m出して停めたものを、乗出時に上り方の停車位置に五m戻すことになつてこの時に、ホームで駅の方で旗を振るていないのではないか。

## No.3

■十一仕業と十八仕業は、三〇〇キロを超す大型仕業となつてはいるが、三〇〇キロを超すきた。また、十八仕業のあけで、中野での食事時間が三五分ではとても食事をすることができない。もっと時間をとるべきだ。

■九仕業から二仕業への渡り時間が八時間を割り込んでいゝ。当局が決めた動乗制度ははもつと時間を増やすべきだ。

■講習の時間については、仕業を特定したほうが時間の無駄もなくなる。今のままでは、待っている間の時間が捨て時間になつてしまふ。講習仕業を設定すべきだ。

### No.3 津田沼編

■点呼で当直に行つたら二人で食事を取つていてすぐに点呼ができなかった。点呼の時もながら点呼を行つていてモゾモゾさせしているのに、当直がこんなことではないか。

■当直の仮眠時間で、所定より長く寝ている者がいる(1時間くらい)。運転士が寝過ぎると処分になるのに、当直だけ長く寝ているなど言語道断だ。

## 職場の声

■夕方の四谷・中野間はC速運転でも入るのたほうが良い。朝の津田沼・千葉間も同様に入らない。(三〇秒くらい)

■掘付けから発車までの時間については、七分以上確保してもらいたい。いまでもギリギリになっている。

### 職場の声

■仕業検査は現在一徹五日動で行つてはいるが朝の入区、たたき、洗場への転線が時間がかかるが、日動ではこれまで通りのセットがなくなつてしまふ(電車は九時二七分入区、日のユニット組成をどうするのかもはっきりしてない)。

■今回のダイヤ改で転削が三名の要員減になつてはいる。現在は、徹夜勤務の人があけの場面でなくなつてしまふ(電車は九時二七分入区、日のユニット組成をどうするのかもはっきりしてない)。